

8月26日～ 前穂高・奥穂高

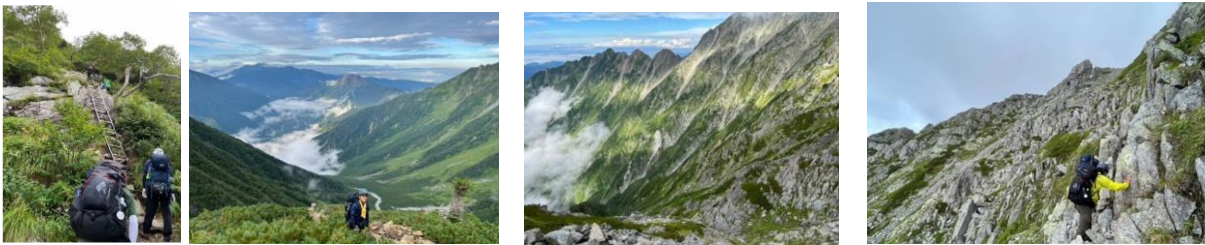
藤村 敏幸

山名	前穂高・奥穂高	山行名	前穂高～奥穂高縦走	
ルート	岳沢・紀美子平・前穂高・吊り尾根・奥穂高・涸沢・横尾			
山行日	令和5年8月26日～28日	天候	曇り・霧・晴・曇り	
参加者	CL: 藤村 SL: 中田 木元 林			
	コースタイム		前穂高往復後美子平発	9:15
	地名	時:分	奥穂高岳着	12:05
	8/26 岳沢登り口	14:50	奥穂高岳発	13:30
	岳沢ヒュッテ着	17:30	穂高岳山荘着	14:00
	8/27 岳沢ヒュッテ発	4:50	8/28 穂高岳山荘発	4:30
	紀美子平着	7:15	上高地着	13:10
<p>今回の山行は岩場が中心なので実施3日前から毎日天気予報を確認していたが、予報内容が会社ごとに異なり悩みに悩み、参加者に意見を求めました。山の天気は変わり易く現地に行き判断しないと分からないとの意見に背中を押され、現地で中止もあることを納得のうえ決行しました。</p> <p>初日は午後から小雨の予報（最大4ミリ）でカップでの難歩行を覚悟していたが、現地は予報に反し曇り空で、上高地から目の覚める美しい穂高連峰を眺め、樹林帯の中を良く整備された木道を歩き、段々と高度を上げ最後は石階段状の道を登り、予定より20分程遅れで山小屋に到着する。到着後暫くすると予報通り激しい夕立があり、予報は半分当たり半分外れであった。</p> <p>山小屋のテレビの翌日予報は終日☀マーク、天気と暮らしもオールA、しかしMountain Skyは曇り後小雨の予報でした。最悪を考えて、翌日は4時出発にする。</p> <p>翌日は、準備に手間をとり4時50分出発となる。昨日激しい雨があったにも拘わらず石道は乾いており、空をみあげれば曇り空であるが、山の輪郭が見え、快晴を期待できる天気である。</p> <p>紀美子平で朝食後、空身で前穂高に向かうが、この頃には一面霧状態で嘆きの声が聞こえる。前穂高岳頂上は北アルプス一番の景観であるが、何も見えずホワイト霧状態で報われない往復ピストン登山となる。</p> <p>紀美子平からの吊り尾根は緩やかな傾斜の登りと想像していたが、何回も小さい岩稜の登り降りを繰り返し、徐々に高度を上げる岩場の連続で大変疲れる山行でした。再難所の20メートルの鎖場は、その前に十分に休憩をとり登る。難所をすぎ更に少し登るとようやく奥穂高山頂に到着する。本来なら大パノラマが見えるはずであるが、天気予報に反し霧が立ち込め真っ白な山頂でした。長時間休憩して、下山し始め40分もすると奥穂高山荘が見え、今日はこれでもう終わりと安心していると、小屋直前に垂直の壁があり、落胆するも気持ちを引き締め、梯子、鎖、オーバーハングな岩を掴みようやく小屋に到着する。到着後ほんの5分後に激しい雨がある。Mountain Skyの天気予報以外は全て外れており落胆する。小屋で食べた味噌ラーメンに心と体の疲れを癒される。</p> <p>3日目、各社共予報は午前中から霧が立ち、午後には雨との予報で、この日は午前4時30分出発する。ほぼ予定歩行時間（コースタイムの1.2倍）通りにチェックポイントを通過して上高地に到着する。涸沢カールの底から穂高連山を見上げれば、快晴で稜線が美しく、また午後2時頃まで全く雨が降らず、この日も天気予報は全く外れていた。</p> <p>天気予報は外れていたが、幸いなことにカップを着ることもなく、怪我もなく無事下山でき同行して頂いた皆様ご苦労さまでした。</p>				
ヒヤリハットなし				



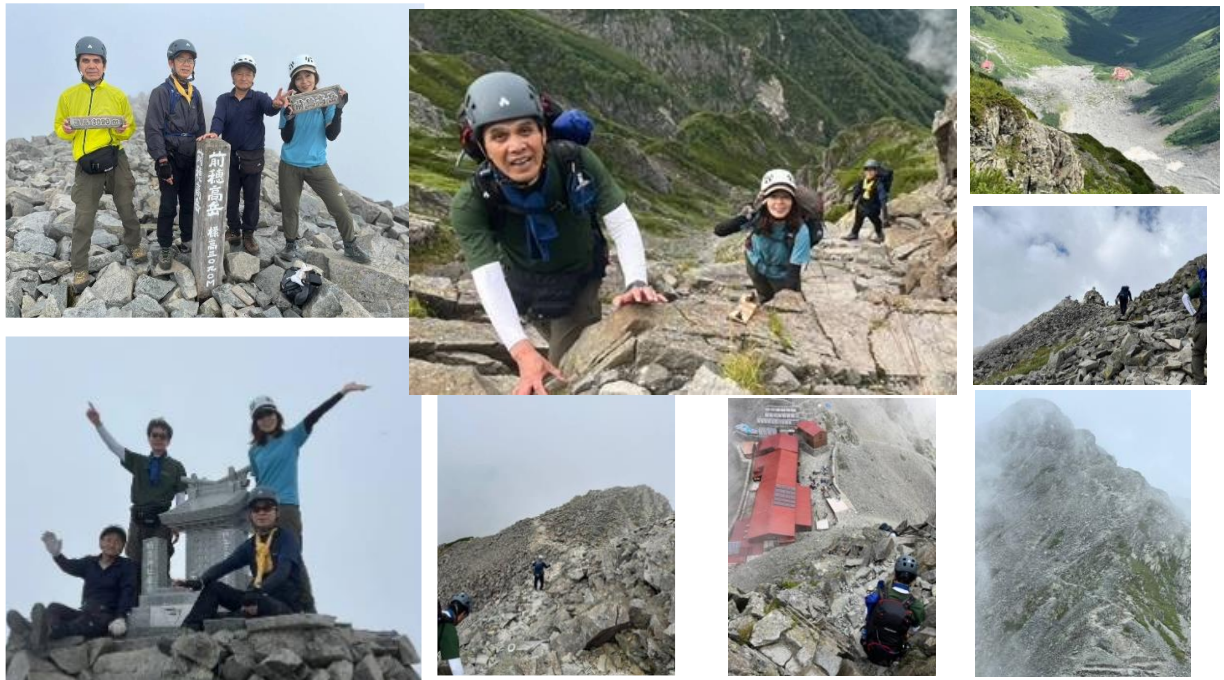
#### 中田 繁男

例会の申込期限を過ぎてから急遽参加をお願いして受付けて頂き参加できました。天候が不安視されましたが、天候等は現地で判断するべきと進言したことが最良でした。1日目は昼から雨予報でしたが、上高地から途中の風穴のクーラーで身体を冷やし汗かいて岳沢小屋について約30分後に大粒の雨になり、テラスで夕飯予定が軒下になってしまった。テラスで休憩していた韓国人の登山者も慌てて小屋に戻ってきた。2日目は重太郎新道から前穂高岳を目指します。予想通り岩場の梯子、鎖場の続く急登りに、足が思うように上がらず先の皆さんから遅れ気味です。寒くはないのですが喉が渇いて水を飲み過ぎました。奥明神沢から前穂高沢の岩場に手こずりながらやっと紀美子平に着いた。ここは先日落石で事故発生していました。沢山のハイカーが何も気にせずどんどんやって来ます。ザックを置いてサブザックで前穂高岳にピストンします。約30分位で山頂が見え始めるとガスが出てきて山頂からの展望は望めません。残念！紀美子平から問題の吊り尾根です。何人も今年は滑落事故多発していました。西側に浮き岩が多く油断すると足を取られ滑落の恐れがあり、長く長い岩場が続く約2時間耐えて前方に奥穂高岳が見えてきた。更に西方にはジャンダルムの岩山が白いガスの中に影のように存在しています。ここも滑落事故が発生しています。山頂の狭い岩場で記念撮影してから小屋に向かいました。穂高岳山荘が見えてやっと着いたはずが、最後の難関です。切り立った崖の下に小屋がありクサリ場、梯子を使いほぼ垂直の岩場を降りるのは、最高に緊張の連続です。下からは登山客が気楽に覗いて楽しそうでした。ここでも小屋に着いてランチのラーメンを食べている最中に大粒の雨が降り出した。さっきあの岩場を登ったツアー客はどうしたのか心配でした。3日目は早朝からザイデングラートの岩場を下山した。2日前に滑落事故発生。岩場の連続で足が重く、涸沢ヒュッテに着いたときはやっと滑落の悪夢から解放です。老人男3名はへたり気味でしたが、若いHさんは又北穂高岳に登りたい！！流石に今回の穂高岳は私にとって体力の限界を感じました。若いハイカーが逞しく、生気のある歩きっぷりが羨ましく、穂高岳は70代の初老が来るところではない。



#### 木元 隆司

前穂高岳、奥穂高岳とも山頂はガスの中で、全く眺望がなかったのは残念でしたが、以前からは是非登ってみたいと思っていた山であり、実現できて皆さんに感謝です。山荘に着いた直後に大雨で、岩場である雨に会っていたらと思うと本当に幸運でした。重太郎新道、吊り尾根、ザイデングラートと岩場、ガレ場の連続で大変疲れました。体力低下を感じましたが、思い出に残る登山です。



林 尚子

一度リクエストを受け CL を引き受けたからには必ずいつか連れて行く。そんな意気込みを藤村さんから感じられました。今回のコースのために日々トレーニングを行った先輩方。宿泊した2つの小屋で先輩方が最年長だったと思います。常に皆で一団となって歩けるように気配り、危険箇所では声をかけ合い気を引き締め合い、休憩では和やかな雰囲気へ導いてくださるなど、先輩方の全てが尊い！！絶景よりも素晴らしい心を学べた山行となりました。感謝しております♪

